

ANNUAL REPORT 2024

一般財団法人 まちと人と



挑戦する若者が増えると、 このまちはどんな姿になると思いますか

「自分も何かしたいけど、どうすればいいのかわからない」
私たちの活動の原点にあるのは、東日本大震災後、石巻で出会った高校生たちの一言です。

その声を拾い上げ、彼ら彼女らと一緒に、
このまちで何をしたいのか考え続けてきました。

ある高校生は、空き店舗でファッションショーを企画し、服の製作もモデルも全てを自分達でやりきりました。
将来保育士になりたい高校生は、絵本の世界感を装飾することでまちを彩り子ども達を笑顔にしました。

そういう思いのある若者たちに出会い、挑戦の応援を続けていく中で
見えてきたのは、人はみな可能性の原石を持っていること。

そしてその可能性を発揮する機会が
まだ、このまちには少ないこと。

私たちは、若者の「やってみたい!」の声を拾い上げ応援することが
まちが若者に選ばれる理由となり、まちの未来をもつくと確信しています。

私たちのこの思いは、少しずつ仲間が増え、今、大きなうねりとなってきています。
これまで見逃してしまっていたかもしれない、小さな若者の声も丁寧に拾い上げられるようになっています。

もし、挑戦する若者が増え続けていったなら、このまちはどんな姿になると思いますか。
私たちと一緒に若者を応援し、まちの未来をつくる仲間になりませんか。

きっと、皆さんと共に描く未来の先には、私たちの想像をはるかに超えた
可能性にあふれるまちの姿があるはずです。

代表理事
齊藤誠太郎

MISSION — 私たちの使命 —

若者の学びと活やくの場をともに育み、
一人ひとりの可能性を最大化する

VISION — 目指すまちの姿 —

石巻地域のすべての若者が
超! 自己実現できるまち

若者が自分らしく自分を **超**える!
若者の自己表現の機会が **超**ある!

STAFF



齊藤 誠太郎



下山 みどり



野内 杏花里



佐々木 紫乃



市川 達博

阿部 みずほ

林 みき



総合的な探究の時間の授業サポート

キャリアプログラム ミライブラリー

高校生が自分の興味関心や社会課題について、地域を通じて探究的な学びを実践する「総合的な探究の時間」の授業サポートを行いました。

特に、高校生が主体的な学びの中で自己理解を深め、挑戦する機会や将来につながるきっかけづくりを支援するために、地域の事業所・個人とのコーディネートなど、各学校や行政など関係機関と連携・協働し、授業づくりのサポートに取り組みました。



地域の「先輩」である若手社会人を講師とし、少人数のグループ形式での対話により、「大人になること」「働くこと」について考えるキャリアプログラムを行いました。

身近なロールモデルである、自分たちの少し先を生きる若手社会人との対話を通じて、自分のキャリアや生き方を考えます。学生から社会人になるための「心の準備」を行う場でもあり、「働きがい」や「自分らしく地域で生きていくこと」を考える場でもあります。



2024年度実績

●宮城県石巻西高等学校

地域の事業所で実践的なフィールドワークを行う「街ミライブラリー」「街ミッション」など、地域を通じて自身の関心や社会課題を探究する授業づくりの支援や、地域の事業所とのコーディネートを行っています。



●石巻市立桜坂高等学校

主に2学年を対象に、カリキュラムづくり・生徒の伴走サポート・地域とつなぐコーディネートを行っています。生徒の「興味関心」や「好き」からテーマを設定し、個人で探究活動を進めることを大切にしています。



●宮城県石巻商業高等学校

2023年度に石巻高校で実施した「学生版from VOICE」をもとにした授業づくりや取材候補の事業所紹介などを行っています。また、ニーズに合わせた丁寧な授業進行や個別相談を実施しています。



●宮城県石巻高等学校

2023年に引き続き「学生版from VOICE」をもとに授業づくりを行っています。地域をフィールドとした学びの充実のため、授業づくりだけでなく、地域の人や企業、団体と学校を繋ぐ役割を担っています。



2024年度実績

石巻地域



- 宮城県石巻北高等学校
- 宮城県石巻商業高等学校
- 石巻市立桜坂高等学校

行政や各学校と連携し、学校ごとの状況やニーズも踏まえたプログラム構成や若手社会人のコーディネートを行っています。若手社会人に対しても、事前研修で参加者同士の学びと交流の場を設けるなど、自身の成長や地域でのつながりづくりにもなっています。

気仙沼・本吉地域



- 南三陸町立志津川中学校
- 南三陸町立歌津中学校
- 宮城県南三陸高等学校

地元の産業のほか、防災・復興・まちづくり・移住などの視点からまちを知り、関心を深め、未来に向けた学びの幅を広げることを目指しています。また、行政と連携し中学校も含めた地域全体での取り組みも行っています。

仙南地域



- 宮城県蔵王高等学校

2025年2月7日に、大河原地方振興事務所との連携により、仙南地域で初めて実施。農業・工業など地域性のある分野の社会人ゲストにご参加いただき、行政・学校・地域による協働のプログラムとして、生徒・社会人双方への効果を創出しました。



石巻で自分の好きを見つけるボランティア まきボラ

石巻地域の学校に通う/在住している/興味がある高校生や大学生を対象としたボランティアプログラムを行いました。

地域の大人との接点をつくることで、高校生・大学生が「地域の良さ」と「自分の好き」を見つけ将来の選択肢を広げることを目的としています。

年に2回、夏と春の高校生の長期休みに実施する「長期休みまきボラ」と、地域のイベントに合わせて実施する「単発まきボラ」の2種類があります。



高校生版 まきターン！ 実践型インターン

石巻地域の高校生を対象に、長期休みを利用した地元事業所への「実践型インターン」(就職を目的とせず、事業所からのミッション達成に向けて実践的な活動を行うインターン)を実施するプログラムを行いました。

高校生が地域の事業所に飛び込み、自ら考え、価値を生み出す経験を通して、主体性の獲得やキャリア形成、地域の理解につなげることを目的としています。



2024年度実績



参加者の声/

放課後児童クラブの子どもサポートボランティア

事業所：一般社団法人まちとこ



参加者：みくさん

普段は人見知りで話しかけるのに時間がかかりますが、それを払拭する勢いでたくさんコミュニケーションができて嬉しかったです。また、事業所の考えに共感できるところが多く、活動も心から楽しむことができたのでまたボランティアしたいと思いました。

食とアートに触れるかご漁とアート体験ボランティア

事業所：一般社団法人Reborn-Art Festival



参加者：まほさん

今まですぐに諦めることが多かったのですが、漁業体験では諦めず最後までやり抜くことで、今まで見えなかったことが見えたり、新しい学びを得ることが出来ました。私は今回の経験を経て、自分が経験したように、自分の住む地域外のことを経験しそれを地元の人に広めたいと思いました。

2024年度実績

東日本自動車株式会社

社員インタビューや職場の見学などを経て、企業や業界の魅力発信のために6ページ、フルカラーのマンガを作成し、企業SNSで発信。その後、パンフレット化に向けて継続的に関わっている。



受入れた事業所の声

高校生ならではの柔軟なアイデアや価値観を得ることができ、プロジェクトの推進に繋がったと同時に、石巻地域にこのような高校生がいることが分かり誇らしく感じました。

ミノリフーズ株式会社

社長などと一緒に新規事業を考え、石巻の特産品である魚介類を「薫焼き」で食べるための体験セットのアイデアを提案。その後、クラウドファンディングの準備も行うなど実践的に活動した。



参加した高校生の声

社会で働く人の考え方や捉え方を知ることが出来て、自分の中での考えの幅が広がったのでとても良かったです。こんな素敵な企業が石巻にあることを知れたことも嬉しかったです。



放課後 探究サポ ート

月2回程度、放課後に学校の空きスペースを利用して、生徒に対して探究活動のサポートを実施するプログラムです。探究の授業で関わるスタッフや、学校教育に興味のある大学生インターンが相談に来た生徒の伴走者となります。授業では補いきれない悩みの相談や、地域での活動のサポートなど、探究に関する選択肢や可能性を広げることを目的としています。

2024年度実績 参加者数: のべ108人



2024年度実績
参加者数: 高校生30人
参加高校: 宮城県石巻商業高等学校
宮城県水産高等学校
宮城県石巻工業高等学校
宮城県石巻北高等学校

専門教育次世代人材 育成プロジェクト 活動サポート

石巻の専門学科を有する県立高校4校(石巻商業/石巻工業/石巻北/宮城水産)の生徒30人による地域課題解決のための活動です。各校の専門的な学びを融合し、新たな視点からアイデアを出し合いプロジェクトを作成します。地域とのコーディネートや生徒のチームビルディング、プロジェクト作成の伴走サポートを行っています。運営元は宮城県教育委員会。

高校生のための いしのまき 探究図鑑

石巻地域で特徴的な事業や活動をしているまちの会社(企業/団体/組織)を紹介するWebサイトです。

石巻の高校生が、地域で行われている活動から自分の興味関心を深めていくヒントを得たり、まちの会社の人たちがどんな探究テーマを掲げ、どのような活動をしているのかを知ることで、自分の探究を進めることを目指しています。

2024年度実績 掲載事業者数: 93事業所



石巻市 地域おこし 協力隊 受入支援業務



石巻の地域活性に寄与する地域おこし協力隊が、安心して円滑に活動を行えるように石巻市と連携し、隊員および受入事業者のサポートを行っています。具体的には、募集や広報など地域や受入事業者とのマッチング、隊員研修、受入事業者研修、面談での個別サポート、全体活動報告会の運営などを行っています。一般社団法人ISHINOMAKI2.0とのコンソーシアム事業。

2024年度実績 サポートした隊員数: 10名



みつひとさん

石巻高等学校
生徒**Q1 「まちと人と」に関わったきっかけは？**

高校の総合探究の授業で学校にいらしていた誠太郎さんとインターン大学生の龍汰さんに自分から「やりたいことがある」と伝えさせてもらったことがきっかけです。

Q2 石巻地域に対しての思い・イメージは？

関わらせてもらった後で初めて、石巻は学生が挑戦したり学んだりする機会をもらえる街なんだと気づきました。学生のやりたいことを本気で支えてくださったことは本当に思い出に残ることです。

Q3 「まちと人と」に関わったことでのご自身の変化は？

一番関わったのは、僕と僕の友達でイベントを企画していたときです。開催する過程で僕たちだけではどうしても応えることのできない問題があって、それを快く引き受けてもらえたことで、石巻の大人って素直にかっこいいなと思うようになりました。



工藤 由香

株式会社
明治の牛乳屋さん石巻**Q1 「まちと人と」に関わったきっかけは？**

石巻商工会議所から、「まちと人と」の「石巻人事部」の取組で地元企業向けセミナーのチラシをみて関心を持ち参加したのがきっかけです。石巻で思いをもって良い活動をしている人たちと出会えて良かったです。

Q2 石巻地域に対しての思い・イメージは？

私は地元が石巻でなく知り合いが少なかったのですが、「まちと人と」さんを通して地域に思いを持って活動している仲間と出会い、何かしたいのは自分だけではなかった思えるようになりました。

Q3 「まちと人と」に関わったことでのご自身の変化は？

一緒に活動する中で、私自身が本当にやりたいことを見つけるきっかけになりました。そしてそれを実現するための後押しも沢山してもらいました。これからは若い人たちに、そういう機会をつくっていきたいと思います。

みんなに
聞いて
みました！

Interview Voice



伊藤 成美

株式会社口笛書店

Q1 「まちと人と」に関わったきっかけは？

ISHINOMAKI2.0で実施されていた、高校生向けの学びの場である「いしのまき学校」にて、誠太郎さんと知り合ったことがきっかけです。

Q2 石巻地域に対しての思い・イメージは？

石巻は、いつも誰かが「仕事なのか遊びなのか分からないような楽しいこと」を興しているまちだと感じています。私も石巻にいて、このまちをもっと楽しくするエネルギーの一部になれたらと思っています。

Q3 「まちと人と」に関わったことでのご自身の変化は？

「まきボラ」に参加した高校生の受け入れを通じて、学生・社会人関係なく仲間になれる環境の重要性を改めて感じました。自分が学生時代に憧れた「石巻の面白い大人」になっているかを考えるきっかけでもありました。

Q1 「まちと人と」に関わったきっかけは？

ISHINOMAKI2.0が主催されていた高校生の教育支援事業に参加したことがきっかけで、誠太郎さんはじめ「まちと人と」のスタッフの皆さんとの関わり合いを持つようになりました。

Q2 石巻地域に対しての思い・イメージは？

地域のために何かしたいという思いを持った方々が多く集まり、様々な活動を展開されていることに、改めて気付かされました。

Q3 「まちと人と」に関わったことでのご自身の変化は？

県外出身のため石巻圏域について分からないことだらけでしたが、皆さんと一緒にすることで多くの人と出会い、様々なお話をお聴きし地域を知ることができていると感じています。



千葉 悠介

東北電子工業
株式会社

なおさん

石巻好文館高等学校
生徒**Q1 「まちと人と」に関わったきっかけは？**

2年生の初め頃、地域の大人と交流し、地域に貢献したいという気持ちがありました。そんな時に「まちと人と」の「まきボラ」の募集を見つけ、それが活動に参加するきっかけとなりました。

Q2 石巻地域に対しての思い・イメージは？

「まきボラ」に参加したことで、石巻には地域をより良くしようと熱心に活動されている大人が多くいることを実感しました。地域の方とお話をしていく中で、皆さんがそれぞれの立場で活動していることに感銘を受けました。

Q3 「まちと人と」に関わったことでのご自身の変化は？

活動を通して、年齢や立場の異なる方々と接するうちに、積極的にコミュニケーションを取れるようになりました。さらに、地域の方とのつながりも広がり、高校生活だけでは得られなかった貴重な経験ができています。



山根 由経

石巻市立桜坂高校
教員

「超！自己実現できるまち」って どんなまち？

そのためにできること

地域と高校生の交差点で見た 「変化」と「希望」

石巻地域の若者が、自分らしく一歩を踏み出し、挑戦の機会があふれる——
「超！自己実現できるまち」はどうすれば実現できるでしょうか。
“超”には2つの意味があります。自分らしく自分を「超える」挑戦をすること。
それを応援する人や場が「超ある」地域であること。

今回の対談では、高校生・先生・企業・まちと人と、それぞれの立場から、
若者の未来とまちの未来をつなぐヒントを探りました。



「超！自己実現できるまち」

高校生はどう思う？

斉藤 まちと人と（以下まちひと）がビジョンとして掲げているのは、「石巻地域のすべての若者が超！自己実現できるまち」ですが、聞いたときは率直にどう思いました？

小林 私はすごく嬉しいというか、助かるって思いました。進学校なこともあって、勉強で輝けないと自分には何もないのかなって思ってたんですね。友達とも、勉強できないと選択肢がすごく少ないよねって話をしたことがあって。でも私は、「まきボラ」（※1）や「まきターン！」（※2）に参加して視野が広がって、このまちで自分にもできることがあるんだ、ということを見つけれられたんです。

※1 まきボラ
石巻地域に関わる高校生と大学生が対象のボランティアプログラム。「地域の良さ」と「自分の好き」を見つけ、将来の選択肢を広げることを目的としている。P5参照。

※2 まきターン！
石巻地域の高校生が対象の「実践型インターン」プログラム。地域の事業所に飛び込み、自ら考え価値を生む経験を通じて、主体性やキャリア形成、地域理解を育むことを目的としている。P6参照。

斉藤 地域に出て、選択肢が増えて。学力も大事だけど、それだけでなく自分が輝ける場所があればがんばれるっていう。

小林 そうです。勉強できないからダメじゃなくて、地域で活動することで自分が認められている安心感。自分の価値って点数だけじゃないんだ、と気づけたのは地域に出たからこそでした。



鈴木 僕は、「自分の『やりたい!』」を実現できるまち」というのは大切だと思います。自

分も「まきボラ」のサポーター側をやりたいって言ったらやらせてくれたじゃないですか。声を上げたら機会をもらえるってすごいことだなと思います。でも、自分の周りには「こういうことがしたいけど、どうしたらいいかわからない」という人が結構いるんです。そういう人がもっと自分から動けるようになったらいいなと思います。

憧れの人がいるから、 自分も動ける

小林 地域の楽しさを強く感じたのは、「まきボラ」で参加したパンパク（※3）のとき。商店街の人たちがまちを盛り上げたいと、1年くらい話し合ってイベントが出来上がっていて。強い思いが本当に実現しているのを見て、カッコいいな、すごいな、って思ったんです。

※3 パンパク
石巻まちなかパン博覧会。立町エリアの商店主たちを中心とした実行委員会が主催するイベント。「まきボラ」では地域の高校生も参加し、会場を盛り上げた。

鈴木 僕は総合探究の授業がきっかけで地域について調べたり人と関わることがあって。最初は地域についてあんまり知らなかったんですけど、調べてるうちに、自分の興味のあることを率先的にやってる大人に出会って。カッコいいな、自分もやってみたいなと思いました。

平岡 今の話を聞いて1つ腑に落ちたことがあって。まちづくりって、「課題感」からまちを何とかしようってスタートすることがあるけど、限界があると思っていて。2人は「憧れ」の話をしてくれたじゃないですか。もっとシンプルに「この人カッコいいな」という「憧れ」の気持ちがまちを盛り上げる1歩目になるんじゃないかって思うんです。

斉藤 確かに。まちで活動する大人も、楽しそうな先輩方を見て「自分もそうなりたい」という思いが最初にあったのかも。課題解決や「まちのため」とかは考えていない。



平岡 拓

石巻高等学校 主幹教諭。
石巻高校での勤務時代に、地域と学校を繋げるコーディネーターとして代表の斉藤を紹介されたのがきっかけでまちひとと関わる。探究授業などを通じて、地域連携の推進に取り組む。



松本 祐佳

株式会社石巻精機製作所 代表取締役。石巻市出身。
海外の大学を経て家業である石巻精機へ就職。石巻西高校「街ミッション」など多くのプログラムで高校生を受け入れる。



小林 来未

宮城県石巻高等学校3年。
「放課後探究サポート」に友達と参加したことをきっかけに、「まきボラ」「まきターン」へ参加。現在は「まきボラ」サポーターとして運営に携わる。



鈴木 大冴

宮城県石巻好文館高等学校3年。
学校の探究授業で「石巻の観光客を増やすには」というテーマに取り組む中で、まちひとが実施した「まきボラ」に参加。現在は「まきボラ」サポーターとして運営に携わる。

モデレーター 斉藤誠太郎

一般財団法人まちと人と 代表理事

平岡 そうですね。地域の魅力を語るときって、「まち」って言いながら実は「人」を指していることが多い気がします。だから、子どもたちが憧れる人をどれだけ大人やまちが紹介できるか、魅力を伝えられるかが、この「超！自己実現」には必要なんだろうなって思いました。

鈴木 自分はこう、友達には「これやった方がいいよ」という強制よりは、まずは自分がやってみて、それを見てやりたいと思った時にできるのがいいなって思います。自分きっかけで友達に参加してくれたことがあって、「あ、自分が動くことで、誰かも巻き込めるんだな」って気づきました。

斉藤 「まきボラ」に友達呼んでくれたもんね。「カッコいいと思う大人」に影響を受け

た結果、大冢自身が友達の「憧れの人」になったんだね。

次の世代を育てる、 地域と若者の関わり方

平岡 私がまちひとと関わったきっかけは、5年前ぐらいですかね。当時、「地域とちゃんと関わっていける学校になった方がいいよね」という話が教育委員会から出ていて。地域と学校をつなぐコーディネーターとして紹介してもらったのが斉藤さんでした。

斉藤 そもそもなんで地域と繋がった方がいいと思ったんですか？

平岡 そうしないと次の世代が育たないからです。高校生がまちで学ぶ機会がないと地域の魅力を知らないまま卒業してしまうし、地域の人も今の高校生を知らないまま、次から次へと世代が変わってしまう。高校生のためにも、まちのためにも、地域と学校が協力しあっている関係は大事だと思うんです。



松本 私が関わったきっかけは、石巻青年会議所の集まりで誠太郎さんにお会いして、インターンの受け入れ相談をされたことです。「街ミッション」(※4)とかで徐々に高校生を受け入れるようになっていって、高校生に「知ってもらおうこと」ってすごく大事だなと思うようになりました。すぐに会社のためにはならないけど、会社と高校生の接点を増やしていくことで、まずは「地方にもこういう会

社があるんだ」「こんな人がいるんだ」って思ってもらいたいです。

※4 街ミッション
石巻西高等学校の総合的な探究の時間の授業で1年生が実施するプログラム。石巻地域の事業所から出されるミッションに生徒が実践的に取り組む。まちと人とがコーディネートしている。

小林 私は「まきターン!」で石巻のイメージが変わりました。活動先は自動車整備会社だったんですけど、家の近くにそんな会社があるって知らなくて。地域への熱意と社員への思いが強い社長さんで、すごく楽しかった。そういう企業が石巻にあるってことを初めて知りました。それまでは「石巻はなんもない」って思ってたんですけど、気づいてなかったんだな、見ようとしてなかったんだなって思ったんです。出会ってなかったら、何もないって思ったまま東京行きたいとか考えてました。

斉藤 それはすごく大きな変化だね。「まずは知る」ということが大切。
松本 本当にそう。平岡先生も言うように、まちと関わらないと魅力もわからないじゃないですか。私、海外の大学に進学して石巻に帰ってきたんですけど、中学校の先生から「帰ってきて残念だな、もったいないな」って言われたんです。でもそうじゃないと思ってて。高校外から戻ってきてみて、石巻ってこんなにいろんな会社があるんだとか、農業もあって水産もあって工業もあって、いろんな面白い人がいるんだって改めて魅力に気づいたんですよ。

斉藤 これから出ていく高校生には、まちの中での出会いとか経験した思い出が、また戻りたい理由になるのかもしれないですね。

松本 その意味では、会社としては社会貢献活動として受け入れることが多いんだけど、それが最終的にはこのまちのためになると思っているところもあって。石巻の外に出た後でも、帰ってきたいとか、

何らかの形でまちに関わりたいうと思う人が増えてほしいです。やっぱり将来的にまちを良くするには、若い人たちがどれだけ石巻に想いを持ってくれるかが大事だと思うんです。高校生との接点をもっと増やすことで、それが何かの形で返ってくるのは楽しみだなって思います。



思いを重ね、 まずはやる

平岡 私は、学校と地域の思いは重なると思うんです。学校は学校で、教育活動としてやるのが決まっていて、その中でどんな体験をさせたいとか、育てたい理想像がある。一方地域の人たちにも「こういう子どもたちが次の世代に出てきてほしい」という思いはあると思ってて。それらはどこかで必ず繋がる、繋がらなきゃいけないと思うんです。高校生の「やってみたい」の声を拾って、企業と学校がもっと一緒に授業だったり高校生の挑戦の場を考えていく場があるといいなと思いますね。「まきボラ」とか「街ミッション」とかはそれに近い気がしていて、すごく良いなと思っています。

松本 普段は接点がないところが課題ですよ。話す場がなかなかない。

斉藤 それぞれの立場から「何やったらいいだろう」って一緒に考える。高校生がやりたいことを好き勝手に言うのでも、地域の人から「これを若者にやってほしい」というのでもない。それぞれが対等な立場として探

しあっていくような。

松本 まずは一緒にやってみるというのが大事かもしれませんね。高校生と活動してみて思ったのは、「こういうことができますよ」と言われるより、1回やってみるの大切さ。やってみると、「あっ、高校生ってできるじゃん」「じゃあもっと一緒になんかやろうよ」って気持ちになっていきます。

鈴木 自分のやりたいことをやれる環境があるのも嬉しいけど、「自分これ意外とできるんだ」みたいな可能性が少し広がるのも嬉しくて。企業の人と一緒に何かやってみて、任せてもらえたり、褒められると自信になる。

平岡 高校生にとって、学校の中ではなく、社会の人たちに認められる経験ってすごく嬉しいんじゃないかな。企業の方には、受け入れてもらって、話してもらだけでもありがたいし、褒めてもらったら最高だなくらい。きっかけは何でもいいので、まず関わってもらえる機会があると嬉しいです。

鈴木 そうですね。高校生からしたら、企業や学校がせっかく選択肢を用意してくれてるんだから、少しの勇気を出して参加するのは大事だなと思います。自分も一回体験してから、こんな大人がいるんだとか、地域についての視野が広がったので、一歩踏み出してみたいです。



小さな対話から まちは育っていく

小林 今日企業の人や先生と話をしてみて、学校側の思いとか、受け入れてくださる企業の背景を知ることができて、話してみないとわからないなと思いました。高校生側が、自分たちの「やってみたい」や「これできる」を伝えていけたらもっと企業の方でできることが増えるんだ、と思えて。これからも地域で活動したいので、もっと一緒に話をして、いろんな面から物事を見られるようになりたいです。

鈴木 僕は、学校だけでは地域の人との関わりが少ないと思っていて。僕ら高校生にとっても、地域の人と喋って一緒に考える機会がもっとほしいなと思います。

松本 大人になっちゃうと、高校生と日頃か

らフラットに話をするってあんまりないと思って。だから高校生ってすごいんだって可能性を感じられるだけでも、企業としてはメリットがあると思う。「すごい、キラキラした、この先に未来が広がってるじゃない」みたいな。お互いに話すことで刺激をもらえるんだから、改めてもっと関わっていききたいなと思います。

平岡 もっと対話することが日常になるといいですね。高校生から、機会をいただいたという声があったけど、本当は特別なものではなくて、もっとあたりまえに話し合える関係性になればと思います。誰かと話す、聞く、意見を交わす。「対話って文化だな」って。僕は、学校と地域をつなぐ中で、いろんな人との対話が積み重なってきたからこそ、今があると思っています。

斉藤 今日の間を通して、対話できる関係性を育む大切さを感じました。それは「学校と地域」「高校生と企業」といった肩書や立場を超えた、対等な「個人と個人」の関係性とも言えます。そういった関係性の積み重ねが、若者の「憧れとの出会い」や「自分もやってみたい」というワクワクを生み出し、まちにも「若者と何かできるかも」「一緒にやってみたい」という前向きな気持ちを広げていく。その連鎖が石巻を「若者が超! 自己実現できるまち」へと近づけるのだと実感しました。

2025年度 新たな挑戦

石巻地域のすべての若者が超！自己実現できるまちを目指し、
2025年は5つの挑戦をしていきます！

- 新規プログラムの立ち上げ1件**
高校生の挑戦が、単発で終わらずに連続的に挑戦できる環境をつくるため
新規プログラムを実施します
- 7つの既存プログラムの深化**
継続して行っている全てのプログラムを見直し、より効果の高い取り組みへと
バージョンアップさせます
- 大手メディアへの露出1件**
プレスリリースにも力を入れ、ローカルメディアからも大手メディアからも
取材を受け、法人ミッション達成のために必要な認知度の向上を目指します
- 寄付額120万から250万円へ**
地域で応援頂ける方々を増やし、課題である東日本大震災関連の
助成金割合が高い状態を打破します
- 内部研修4回**
法人クレド(行動規範)を「よく考え、まちの人を大切に、まずは自分から動く」と定め、
内部研修を行い、スタッフの学びの機会を設けます

関連会社ことができました！合同会社まちひとワークス設立 /

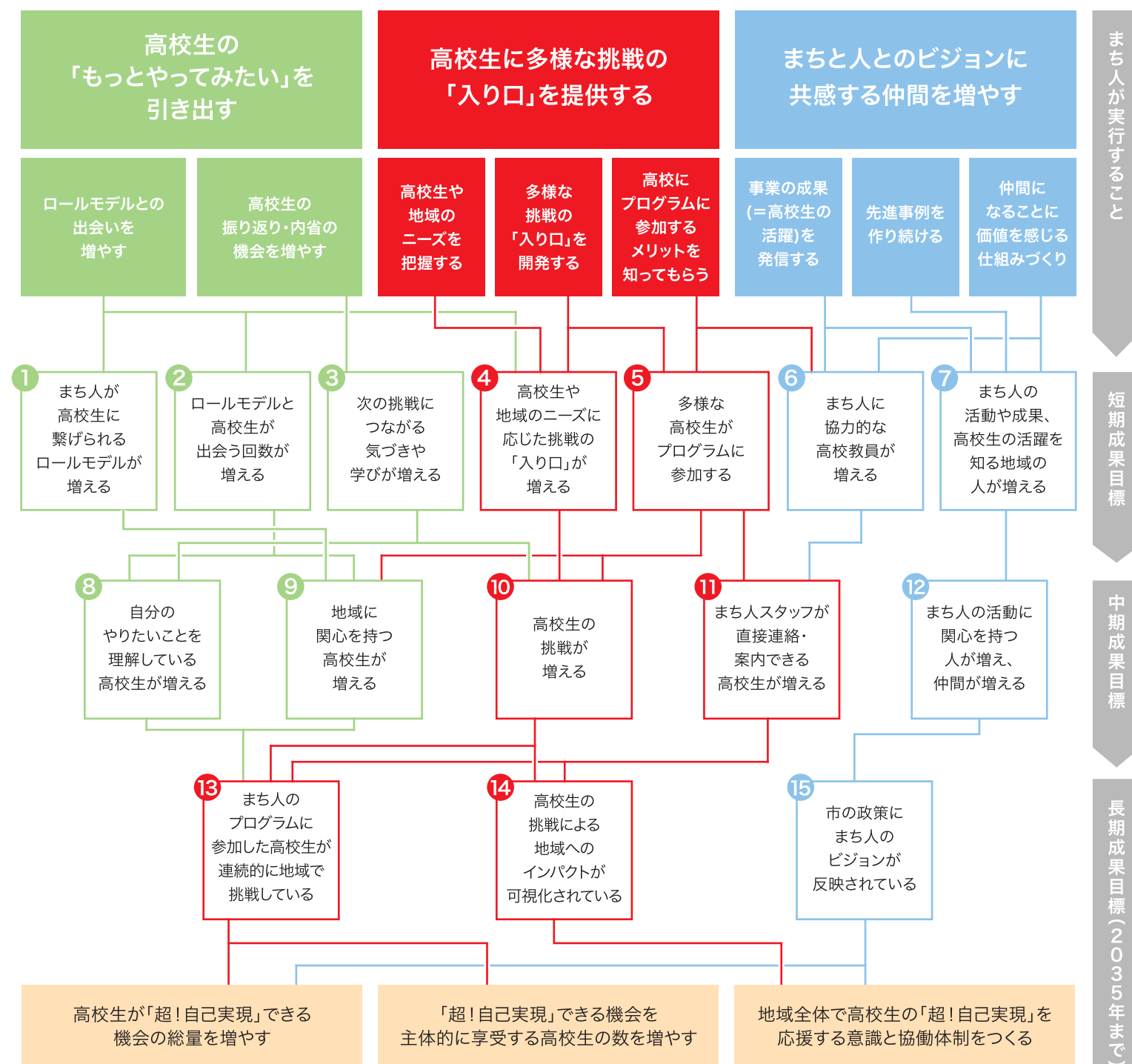
まちと人とが掲げている「まちが人を育み、人がまちを豊かにする」を更に加速
するため、関連会社として2025年5月に合同会社まちひとワークスを設立しま
した。
まちひとワークスでは特に「人がまちを豊かにする」事業を進めるため、**石巻地
元企業の人材育成事業や採用支援事業**、それらを地域ぐるみで推し進める「**地
域の人事部事業**」に取り組んでいきます。



合同会社
まちひと
ワークス

2035年までのビジョン達成ロードマップ

2035年までに石巻地域の全ての高校生が超！自己実現できることを目指し、
そのためのビジョン達成ロードマップをつくりました。



石巻地域のすべての高校生が地域の中で
自分らしく挑戦できる機会と、その受け皿をつくる

石巻地域のすべての若者が
超！自己実現できるまち

まち人が実行すること

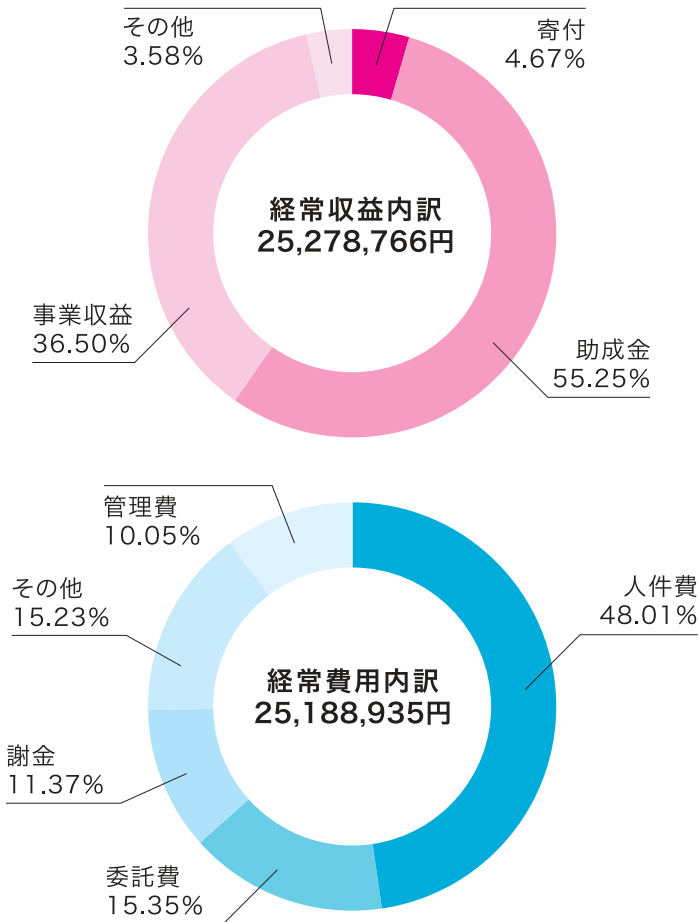
短期成果目標

中期成果目標

長期成果目標(2035年まで)

ビジョン

2024年度 活動計算書



	項 目	金 額(円)
経常収益	寄付	1,180,888
	助成金	13,965,545
	事業収益	9,227,160
	その他	905,173
	経常収益合計	25,278,766
経常費用	事業費	12,092,496
	人件費	3,865,273
	委託費	2,864,024
	謝金	3,836,516
	その他	2,530,626
	管理費	2,530,626
	経常費用合計	25,188,935
	収支差額	89,831

ご寄付の方法

マンスリーサポーター

まちと人との活動を毎月継続的に応援できるサポーターをREADYFORの継続寄付プラットフォームを通して募集しています。地域の未来をともに作る仲間として、200人のサポーター登録を目指しています。詳細はリンクからご確認をお願いいたします。

Power to the society SOCIAL ENERGY

日頃使う電気で地域を応援できる電力サービスプラットフォーム「SOCIAL ENERGY」に参画し、「まち人電力」を実施しています。個人契約・法人契約問わず「まち人電力」に電気を切り替えて頂くことで、毎月の電気代の一部を活動にご寄付頂けます。

YAHOO! JAPAN ネット募金

Yahoo!ネット募金を通して、まちと人との「石巻の高校生を対象にした取り組み」についての寄付支援を募っています。PayPayおよびクレジットカードからのご寄付が可能です。詳細はリンクからご確認をお願いいたします。

銀行振り込み

銀行名 七十七銀行 / 石巻支店
振込先 普通預金 5029064
名 義 一般財団法人まちと人 代表理事 斉藤 誠太郎
読 み イッパ ンダ ンホジ ンマホヒト ダイヨウリ ン サイト セイノウ

SUPPORTERS

法人

真壁病院 口笛書店 東日本自動車株式会社 宏和機工 新東総業

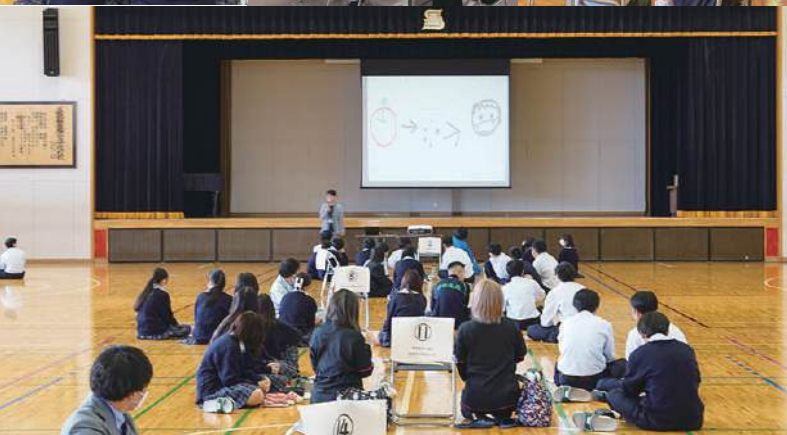
if イシノマキ・ファーム ISHINOMAKI SEIKI KOWA 街づくりまいる 株式会社牡鹿観光 株式会社 明治の牛乳屋さん石巻 株式会社 西條設計コンサルタント

STUDIO HOOD まなびのたね ネットワーク やっぺす!! 愛さんさん

個人 平塚 真一郎 / 榎谷 和子 / 實 鈴子
今野 亨 / 渡辺 一馬 / 三上 和仁
鈴木 洋太郎 / 榎本 真俊 / 中川 政治
柴田 滋紀 / 難波 大輝 / 八島 賢司

助成 / 協力 みんなでがんばろう日本 八たち基金 PR TIMES





一般財団法人
まちと人と

法人名 一般財団法人まちと人と

設立 2022年3月18日

所在地 〒986-0822
宮城県石巻市中央二丁目7-38石巻ガスビル3階

電話番号 0225-25-4085

問い合わせ info@machihito.jp

代表理事 齊藤 誠太郎
社会教育士 / 産業カウンセラー
石巻市学校支援地域コーディネーター
石巻高等学校地域コーディネーター
一般社団法人ISHINOMAKI2.0 理事

[評議員]

齋藤祐司 株式会社齋武商店 代表取締役社長
平塚真一郎 石巻市立湊中学校 校長
松本祐佳 株式会社石巻精機製作所 代表取締役
山内智浩 東日本自動車株式会社 代表取締役社長
横江信一 石巻専修大学人間学部 特任教授

[理事]

松本裕也 一般社団法人フィッシャーマン・ジャパン 事務局長代理
三上和仁 合同会社デザインナギ 代表
渡辺一馬 一般社団法人ワカツク 代表理事

[監事]

山田晴康 HaS会計事務所 代表

[連携・協働組織]

石巻市立桜坂高等学校、宮城県石巻西高等学校
宮城県石巻高等学校、石巻専修大学、
宮城県東部地方振興事務所地方振興部、
石巻市復興企画部SDGs移住定住推進課、
一般社団法人ISHINOMAKI2.0、
一般社団法人フィッシャーマン・ジャパン ほか